

会報 こぶし

北陸電波学校
北陸電波専門学校
北陸電波高等学校
金沢工業大学附属高等学校
金沢工業高等専門学校
国際高等専門学校
金沢工業大学

VOL
77
2026.1

社会を動かし、人を育てる

INTERVIEW 新理事長に田向純氏

同窓生と学園 より一層の連携を

高専ロボコンでデザイン賞

国際高専Aチームが初受賞



18歳人口の減少という逆風の中、令和7(2025)年6月、学校法人金沢工業大学の第9代理事長に田向純氏が就任しました。社会実装型総合大学としての価値を全国に発信するとともに、創立70周年に向け、全国の同窓生と共に歩む新たな決意をうかがいました。



同窓生と学園 より一層の連携を 新理事長に田向 純氏

(高専・電気・昭和61年卒)

(大学・電子・昭和63年卒)

18歳人口の減少が深刻

令和7(2025)年6月、学校法人金沢工業大学の第9代理事長に就任いたしました。私自身、金沢工業高等専門学校(現・国際高等専門学校)と金沢工業大学を卒業した同窓生であり、今後の学園の舵を握る使命の重さに身の引き締まる思いです。

これからの学園運営の道のりは決して平坦ではありません。ご存じのように、わが国は少子化が急速に進み、18歳人口は減少の一途をたどっています。これは大学をはじめとした高等教育機関にとって深刻な問題であり、本学園も例外ではありません。

日本私立学校振興・共済事業団によれば、令和6(2024)年度の全国の私立大学志願者の89.5%が三大都市圏(埼玉、千葉、東京、神奈川、愛知、京都、大阪、兵庫の8都府県)に集中する一方、石川県を含む

39道県の地方私立大学への志願者の割合は、わずか10.5%に留まっています。

「場」の価値を伝えるには

こうした厳しい状況を乗り越える成長戦略として、金沢工業大学は令和7(2025)年4月、6学部17学科に再編しました。文理の枠を超えて共創する「社会実装型総合大学」への転換を推し進め、社会が真に求める人材を育成します。

また、令和9(2027)年に完成予定の「X(クロス)デザインラボ」(新16号館)は再編の象徴です。「知とコミュニケーション・デジタル・モノ・コト・人」をクロスすることで、新しい価値やイノベーションを生み出していく教育研究拠点であり、DX・GX・SXを牽引する人材育成と学生の新たな価値創造を図る産学連携のハブとしての役割を

担います。

このように、大学のソフトやハードを常にアップデートすることは当然です。しかし、それだけでは、受験生が地方私立大学である金沢工業大学を「第一選択肢」として選んではくれません。

では、大都市にないもので、地方にあるものは何か。

石川県には、金沢市や野々市市などの歴史と文化、豊かな自然があり、この場所で全国から集まった仲間たちと学び合う経験は代えがたいものです。人々の集いが、学生を成長させ、コミュニティーを活性化し、イノベーションを促す。このような「場」の価値は、卒業生である皆さんが一番の理解者です。この価値を受験生にどう伝えるか、それが今後の課題であり、学園全体で知恵を絞っています。

「専門分野 × AI・情報技術」を教育の軸とし、社会実装型教育研究を全学的に推進する中核拠点となる「X(クロス)デザインラボ」



建学綱領が羅針盤

さて、本学園は昭和32(1957)年の北陸電波学校の開校に始まり、金沢工業高等専門学校(現・国際高等専門学校)、金沢工業大学、金沢工業大学大学院の設置と着実に歩みを進め、令和9(2027)年に創立70周年の節目を迎えます。

「人間形成」「技術革新」「産学協同」。この3つの理念を掲げる建学綱領こそが、これまで我々を導いてきた羅針盤です。今もって色褪せることのない先見性に先人の偉大さを改めて感じています。

本学園では、建学綱領において、「社会に必要とされる人材を育成するという「人間形成」を最も大切にしてきました。「教育力」と「研究力」によって成長した学生を社会に送り出し、研究成果を社会へ還元することは大学の使命だからです。

私たちの教育プログラムは、学生一人ひとりの潜在能力を引き出します。とくに、国際高等専門学校と金沢工業大学が一体となった「KITスクールシステム」は、未来を生き抜くための国際感覚から最先端の「研究力」までを網羅しています。また、「産学協同」をいち早く掲げ、産業界との協力を打ち

出していたことが、現在の「共創」という考え方の原点となっており、学生は多様性を受け入れる柔軟さを手にします。

社会の第一線で、実に多くの同窓生が活躍しています。その輝かしい姿こそ、本学園が実践してきた教育・研究の価値を、何よりも雄弁に物語るものです。その実績が、今日の学園への信頼につながっていると実感します。

皆さんと共に歩む

私は来る70周年が、本学園が歩んできた歴史を見つめ直す機会とし、100周年へ向けての飛躍のきっかけにしたいと考えています。その道のりにおいて、同窓生の皆さんの協力が不可欠です。ぜひ、母校を未来へとつなぐ応援活動に参加してください。

昭和57(1982)年に誕生したこぶし会は、今や北海道から沖縄まで8万人を超える大きな組織へと成長しました。私も長年、関東こぶし会で活動し、微力ながら会の発展に尽くしてきました。

まだ、理事長になって間もないですが、同窓生が母校を「忘れない」ことが、とても大事だと考えています。そういった意味では、同窓会活動は大きな役割を担っています。「この学校に来てよかった」と皆さんに思ってもらえる学園を受け継いでいくこと。それが私の役割です。同時に同窓生の一人として、皆さんと共に歩んでまいります。

文理の枠を超えた社会実装型総合大学への転換により、グリーン社会や持続可能な社会への転換(GX・SX)といった社会の課題に応える学びを提供していく

“文理探究型”の学部
デザイン思考による
持続可能社会の構築

情報
デザイン
学部

建築学部

メディア
情報学部

専門分野
工学・理工学・
情報

情報技術
AI・IoT・
データサイエンス

工学部

情報
理工学部

バイオ・
化学部

“情報×理工学”の学部
AI・IoT・ビッグデータの
活用による社会課題解決

DXを活用する
“工学・理工学”の学部
産業や生活を支える
基盤技術の開発と活用

DX
DIGITAL
TRANSFORMATION

GX
GREEN
TRANSFORMATION

SX
SUSTAINABILITY
TRANSFORMATION

情報技術・情報科学を駆
使し、デジタル情報の新た
な価値を実装します

豊かな生活を実現するグ
リーン社会の価値を追究
します

グローバルな視点から持
続可能な社会の価値を
追究します

- AI時代に求められる“専門分野×情報技術”の専門人材の育成
- 文理の枠を超えた社会実装型教育研究プロジェクトの実践

保二会

北陸電波学校・北陸電波専門学校・
北陸電波高等学校・金沢工業大学附属高等学校

南加賀の歴史的遺産をめぐる

文化講座

文化講座が令和7（2025）年7月5日、石川県加賀市と小松市で会員ら12人が参加して開催され、この地に刻まれた文化と風土の奥深さに触れました。

一行はまず、加賀藩の支藩だった大聖寺藩で防御の要となった「大聖寺城跡」に足を運びました。参加者はアップダウンの激しい山道に苦戦しながら、関ヶ原の戦いの前哨戦となった『大聖寺城の戦い』の舞台に感慨深げでした。

続いて「深田久弥 山の文化館」へ。名著『日本百名山』の著者である久弥の世界に触れ、使い込まれた登山道具や貴

重な直筆原稿を前に、参加者はその山と文学に捧げた生涯と情熱に深く感銘を受けていました。

「北前船の里資料館」では、船主たちの暮らしぶりの一端を垣間見たほか、「那谷寺」で国指定名勝の『奇岩遊仙境』をはじめ、『本堂』や『三重塔』などの国指定重要文化財に目を凝らし、境内に苔むす緑の美しさに心を奪われました。最後に「日本自動車博物館」で500台以上の国内外の懐かしい名車に胸をときめかせました。



大聖寺城本丸の跡地周辺で記念撮影する参加した皆さん



北前船の寄港地や航路、船荷などについて説明を受けました

高専同窓会

金沢工業高等専門学校・
国際高等専門学校

全国有数の文化エリアに感心

第19回金沢歴史探訪

第19回金沢歴史探訪は令和7（2025）年6月22日、石川県金沢市の国立工芸館などで開かれ、会員ら9人が兼六園を中心としたエリアに人を呼び込む仕組みに理解を深めました。

はじめに、石川県文化振興課の方が「兼六園周辺文化の森の賑わい創出」をテーマに講演。兼六園周辺文化の森は、国立工芸館をはじめ、歴史的建造物や文化施設が重層的に集積する全国でも有数のエリアです。多彩な文化イベントの開催と割引制度で回遊

性を生み出し、観光客誘致と地域の活性化につなげているとしました。

続いて一行は、日本の近現代の工芸・デザインを専門に扱う国内唯一の国立美術館である「国立工芸館」を訪れました。正面向かって左に旧陸軍第九師団司令部庁舎、右に旧陸軍金沢偕行社（いずれも国登録有形文化財）を移築・活用したもので、人間国宝の作品をはじめ約4,000点を所蔵しています。参加者は細やかな装飾が施された明治期の洗練された建物に心奪われていました。



エリア一帯の賑わいの創出に向け、国や金沢市とが連携し、「加賀百万石回遊ルート」として一体的に取り組んでいます



石川県の文化レベルの高さが国立工芸館の移転につながったと知り、笑顔を見せる参加した皆さん

☑ ながつき会 土木工学科・環境土木工学科

会員同士の結束強め

第11回総会

第11回総会は令和7(2025)年10月18日、金沢工業大学8号館301教室で開かれ、コロナ禍の影響を乗り越え、6年ぶりとなった待望の再会に、会員たちの笑顔が広がりました。

総会では、事業計画ならびに予算が原案通り承認されました。

続いて役員改選が行われ、橋場正明会長(平成9年卒)が再任されました。

再任のあいさつで橋場会長は、「同窓会への変わらぬ思いを胸に、会員同士の結束を強めたい」と同窓会の未来を見据えた今後の活動への抱負を述べました。



総会に出席した皆さん



■ 仲間同士で楽しくゴルフ！

ながつき会ゴルフ大会は令和7(2025)年8月9日、石川県小松市のゴルフクラブツインフィールズ(ダイヤモンドコース)で13名が参加して行われました。久しぶりに再会する仲間も多く、変わらない姿にお互いの顔が自然とほころびました。



互いのプレーを讃え合いました

☑ 経工会 経営工学科・経営情報工学科・情報マネジメント学科・情報経営学科・経営情報学科

告知



情報デザイン学部・経営情報学科

講演 中野 真准教授

令和8(2026)年 1月17日(土) 10:30～

第46回冬の異業種交流会

「技術者の視点」について

参加無料



経工会

会場：こぶし会多目的ホール(対面とオンライン併用のハイフレックス型式)

こぶし会会員の方ならどなたでも参加できますので、経工会およびこぶし会ウェブサイトからお申し込みください。

■ 総会

総会は令和7(2025)年8月23日に行われ、事業報告、決算報告などが承認され、すべての役員は3年間留任となりました。総会終了後に第45回夏の異業種交流会がありました。

■ 第45回夏の異業種交流会

里見和彦氏(経営・昭和57年卒)が「江戸の大名・幕臣の諸屋敷経営の変遷について」と題して講演し、大名・幕臣の不動産取引や拝領地経営について解説しました。里見氏は江戸の経済成長の下支えした不動産ビジネスの陰には、小普請組で3,000人弱のうち67%は自らの拝領屋敷の全部か一部を貸与しており、さらにその

うち45%が他家に借地住宅か同居であったとしました。

幕臣には拝領屋敷に住んでいない者が多くおり、そのなかには売却してしまって住むことができない者も幕臣には存在したそうです。大名・幕臣は苦肉の策で屋敷稲荷の公開や抱屋敷の有効活用に活路を見い出していました。

☐ 積み木会

つ み き か い

建築学科・居住環境学科・建築都市デザイン学科・建築デザイン学科

ウェブサイトで若手会員と交流

総会、講演会、懇親会を開催

総会が令和7(2025)年11月15日、金沢工業大学1号館301室で4年ぶりに開かれました。能登半島地震や能登半島豪雨の影響を考慮し、1年延期となっていました。

積み木会顧問で建築学部長の下川雄一教授と会員19人が出席し、岡島康

博会長(平成8年卒)を再任しました。また、若手会員が気軽に積み木会活動に参加しやすくなるよう、ウェブサイトを開設して若手会員とともに活動できる環境をつくり、卒業生や在学生が気軽に参加できる建築研修会をウェブサイトと連動させた新たな交流スタイルを見つけたいと目標を掲げました。

総会後は、下川教授が「建築、空間、情報の関係をデザインする」をテーマに講演し、4月の学部再編や現

在建設中の「X(クロス)デザインラボ」(新16号館)など金沢工業大学の近況を紹介しました。

続いて、卒業・修士研究の紹介、コンクリート3Dプリンター実用化の研究、VRによる施工教材ツールの開発研究など建築デザインにおけるデジタル技術の活用など、最近の建築情報分野の知見を披露しました。

講演後は、21号館(イルソーレ)で懇親会を開催し、会員の皆さんが若手会員とも交流を図り、同窓会活動への参加を呼び掛けたり、下川教授に講演会内容の質問を寄せたりするなど、久しぶりの再会を喜び合う会員の姿も見られ、和やかな雰囲気の中での盛会となりました。



総会に出席した皆さん

☐ 扇翔会

せんしやうかい

情報処理工学科・情報工学科・メディア情報学科

新学科設立を機に飛躍

総会・懇親会を開催

総会・懇親会は令和7(2025)年10月18日に開かれ、今後の活動方針などを意見交換しました。

総会では最初に、加原智彦会長(平成7年卒)が扇翔会の活動について説明しました。続いて令和4(2022)年度から令和6(2024)年度までの3年間の決算報告(大橋一樹さん・平成15年卒)、監査報告(磯部琢磨さん・平成20年卒)、加原会長から3年間の事業実績および今年度の事業計画についての説明が行われました。役員改選を行い、長らく担当されていた二飯田一貴さん(平成8年卒)に代わって、大平賢志さん(平成

25年卒)が副会長に就任し、副会長は小松義明さん(平成22年卒)との2名となりました。最後に質疑応答を行い閉会しました。

懇親会は、「KITホームカミングデー」にあわせて実施しました。最初に情報工学科主任の阿部倫之教授(昭和59年卒)から挨拶があり、「今後は新学科である『知能情報システム学科』も加えて、さらなる発展が期待される」と話されました。

懇親会には教員、学生スタッフを含



懇親会で親睦を深めた皆さん

め、総勢14名の参加があり、久しぶりに再会した旧友や恩師への近況報告など、楽しい時間はすぐに過ぎました。次回も学園祭にあわせて、懇親会を実施する予定です。皆さまの参加をお待ちしております。

各委員会メンバー

令和7(2025)年の各委員会のメンバーが交代しましたのでご紹介します。

会報委員会



- 担当副会長
西谷 隆司 (高専・電気・昭和53年卒)
- 委員長
中橋 勝美 (保二会・工大附・昭和41年卒)
- 副委員長
今越 寛 (大学・経営・昭和46年卒)
- 委員
瀬川 明夫 (大学・機械・平成2年卒)
加原 智彦 (大学・情報・平成7年卒)
村井 宜延 (大学・心理・平成22年卒)

- 泉屋 利明 (大学・情報・平成7年卒)
- 金森 洋三 (保二会・電波高・昭和39年卒)
- 松浦 忠 (保二会・電波高・昭和37年卒)
- 高井 武 (高専・機械・昭和43年卒)
- 杉本 康弘 (大学・機械・平成8年卒)
- 津田 敏宏 (大学・電気・平成15年卒)
- 本多 巖 (大学・土木・昭和59年卒)
- 加原 雅之 (大学・建築・平成10年卒)
- 相沢 英之 (大学・情報・平成20年卒)

支部委員会



- 担当副会長
古橋 孝実 (大学・建築・平成8年卒)
- 委員長
佐藤 和仁 (大学・建築・昭和59年卒)
- 副委員長
源野 統夫 (大学・建築・平成2年卒)
酒本 明広 (大学・情報・平成22年卒)
浅岡 毅 (大学・土木・平成8年卒)

- 委員
水野 四郎 (保二会・電波高・昭和39年卒)
- 吉井 源治 (大学・電子・平成5年卒)
- 西田 稔 (保二会・電波高・昭和37年卒)
- 宮川 明光 (高専・機械・平成元年卒)
- 瀬戸 雅宏 (大学・機械システム・平成10年卒)
- 北川 信光 (大学・電気・昭和49年卒)
- 宮元 清 (大学・経営・昭和45年卒)
- 大山 光則 (大学・居住環境・平成16年卒)
- 下津 竜之 (大学・人間情報・平成11年卒)

企画委員会



- 担当副会長
中野 忠史 (保二会・電波高・昭和38年卒)
- 委員長
高木 由次 (大学・経営・昭和50年卒)
- 副委員長
野中 正樹 (高専・機械・昭和49年卒)
中田 政之 (大学・機械・昭和61年卒)
南 茂樹 (大学・土木・昭和57年卒)

- 委員
北山 博 (高専・電気・昭和59年卒)
- 石富 智宏 (大学・土木・平成元年卒)
- 早川 義造 (高専・電気・昭和43年卒)
- 油野 和能 (保二会・電波高・昭和40年卒)
- 菊田 聖一 (高専・機械・昭和60年卒)
- 松田 茂喜 (大学・電子・平成6年卒)
- 村井 繁夫 (大学・経営・平成6年卒)
- 松下 外志彦 (大学・建築・平成20年卒)
- 岡本 洋平 (大学・メディア・平成21年卒)
- 中屋 真悟 (大学・環境システム・平成11年卒)

第27回 こぶし会 | ゴルフ大会

杉浦 康広さんが (大学・土木・平成7年卒) 初優勝！



杉浦さん(写真右)の優勝コメント

初めて参加しました。偶然とはいえ、誕生日に優勝できたのは思い出になりました。来年も出場したいですね。

大会は令和7(2025)年9月20日、石川県能美市の白山カントリー倶楽部で開かれ、会員ら56人がプレーを楽しみました。1年ぶりに顔を合わせた会員も多く、お互いの再会を喜びました。



ネットの部

- 優勝 杉浦 康広さん (大学・土木・平成7年卒)
- 2位 堀 賢治さん (大学・土木・昭和62年卒)
- 3位 山田 茂一さん (大学・土木・昭和56年卒)

ベストクロス

- 本多 光雄さん (高専・電気・昭和50年卒)

静岡支部

ものづくりの情熱に感心 技術革新の精神を肌で



貴重なギターなどが展示されていました

イノベーションロードで音楽に
素晴らしに触れた皆さん

静岡支部は令和7(2025)年10月25日、会員13名が静岡県浜松市のヤマハ本社「イノベーションロード」を訪れ、新たな価値を社会に問い続けてきた同社の歴史とものづくりへの情熱を学びました。今回、コロナ禍以降、開催できていなかった浜松での支部総会と、ヤマ

ハ本社への見学会を企画しました。

イノベーションロードは、ヤマハが手がけてきた楽器やオーディオ機器などを展示したミュージアムです。「ヒストリーウォーク」のコーナーでは歴代の楽器や電子楽器などのほか、世界的ロック・ギタリストであるカルロス・サンタナのり

クエストで、ボディに仏陀の模様がはいった「SG-175Buddha」もありました。

参加者は、130年にわたるヤマハの歴史と最新技術に触れました。その後、総会と懇親会で久しぶりに会う浜松の皆さんと交流を深めました。

関東
こぶし会

6年ぶりの再会喜ぶ

令和7年度 総会・七夕同窓会を開催

令和7(2025)年度関東こぶし会総会・七夕同窓会は同年7月12日、東京都千代田区のアルカディア市ヶ谷で85名が出席して開かれ、6年ぶりとなった再会に喜び合いました。

香田祐毅東京支部長(大学・建築・平成21年卒)が司会を務め、総会では中村幸蔵関東こぶし会会長(大学院・知的創造システム・平成17年修了)が挨拶しま

した。この後、東京野々市会の後藤光将会長の挨拶、元関東こぶし会会長でもある、学校法人金沢工業大学福光憲征参与(保二会・電波高・昭和38年卒)の発声で懇親会がスタートしました。

また、関東こぶし会事務局を務めた田向純氏(大学・電子・昭和63年卒)が学校法人金沢工業大学理事長に就任したことが紹介され、祝福の声が上がりました。



埼玉・千葉・東京・神奈川の4都県から幅広い年代のOB・OG、来賓など当初予想を上回る85名が集いました

告知 関東こぶし会

女性エンジニア・リケジョ交流会を企画

◆日時:令和8(2026)年2月28日(土)

◆場所:東京虎ノ門キャンパス

関東で活躍する女性のこぶし会会員(保二会・高専・大学・大学院)が集い、情報交換しませんか。他の地区からの参加も歓迎です。

第一部:アフタヌーンティー

第二部:懇親会(別会場)

※年齢は問いません。

詳細・申し込み方法はこぶし会ウェブサイトに掲載します。

東海地区 ゴルフコンペを開催!

令和7(2025)年10月22日、岐阜県富加町のトーシנגゴルフクラブセントラルコースで10名が参加して行われました。



令和7(2025)年度 支部総会

全国各地で開催！ 来られなかった方も次回ご参加ください

◆ 開催した支部 4月 石川支部 5月 鹿児島支部 6月 栃木支部／札幌支部／富山支部／秋田支部
7月 青森支部／岡山支部／茨城支部／関東こぶし会／岐阜支部(岐阜)／香川支部／高知支部／徳島支部／愛媛支部／新潟支部／道東支部／山梨支部／岐阜支部(高山)／京都支部(京都) 8月 広島支部／島根支部／宮崎支部 9月 鳥取支部／山形支部／愛知支部(名古屋)／大阪支部 10月 宮城支部／愛知支部(豊橋)／兵庫支部／静岡支部 11月 和歌山支部／京都支部(福知山)／福岡支部／佐賀支部／長崎支部



道東支部



青森支部



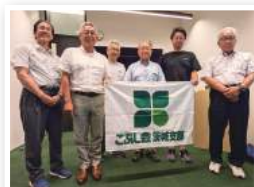
宮城支部



秋田支部



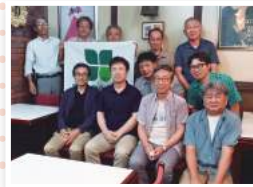
山形支部



茨城支部



栃木支部



山梨支部



新潟支部



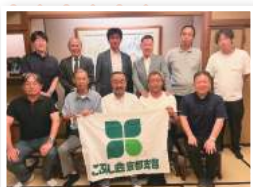
富山支部



岐阜支部(高山)



岐阜支部(岐阜)



京都支部



和歌山支部



岡山支部



香川支部



愛媛支部



高知支部



福岡・佐賀合同支部総会



宮崎支部

■ 新支部長紹介



青森支部
蒔田 廣紀氏
(大学・建築・平成20年卒)



栃木支部
小柳 雄一郎氏
(大学・建築・平成元年卒)

告知 支部総会開催のお知らせ

・ 岩手支部／うし亭(盛岡市菜園)

令和8(2026)年 1月24日(土) 17:00

・ 沖縄支部／とまり食堂

令和8(2026)年 1月24日(土) 19:00

・ 石川支部／ANAホリデイ・イン金沢スカイ

令和8(2026)年 4月25日(土) 17:00



こぶし会

HOME COMING DAY

世代を超えた絆、再会の笑顔咲く

金沢工業大学と国際高等専門学校のホームカミングデーは令和7(2025)年10月18日に行われ、世代を超えた交流の輪が広がり、恩師や旧友との再会を喜ぶ声がキャンパスに響きました。

金沢工業大学

ホームカミングデーの冒頭、大澤敏学長が「母校の発展は卒業生の活躍に支えられている」、古橋孝実大学同窓会長(建築学科・平成8年卒)は「母校には卒業生の支援が欠かせない」とあいさつしました。



岡 喜勝さん

建築学科・昭和51年卒

建築への理解深まる

2カ月に1度のペースで設計課題が出されたのを思い出します。当時はCADもなく手作業だったので苦労しましたが、建築への深い理解と忍耐力が身につきました。



大橋 一樹さん

情報工学科・平成15年卒

学んだ技術を業務に

人工生命の研究で、個体の動きをシミュレーションしていました。当時学んだプログラミング技術を生かし、今の仕事では業務の効率化に役立てています。



宮澤 碧杜さん

メディア情報学科・令和7年卒

後輩のたのもしさに安心

卒業して間もないのですが、電子計算機研究会の後輩に会いに来ました。自分たちとは違ったアイデアで新たな取り組みをしている後輩がたのしかったです。

国際高等専門学校



金沢キャンパス(石川県金沢市)1階に特設スペースを設け、全ての学年の卒業アルバムがずらりと並べられました。高専祭が行われている中、朝から卒業生が次々と訪れ、ここ数年で教室などのリフォームが進んだことにより、以前と印象が異なった校舎に驚いていました。また、懐かしい先生や旧友との会話も弾みました。



阿部羅 祐太さん

機械工学科・平成22年卒
大学・ロボティクス学科・平成24年卒

困難を乗り越える力

高専ロボコンに憧れて入学しました。4足歩行から2足歩行に進化するロボットの製作は困難の連続で、粘り強さが身についたと実感しています。



浅井 大輝さん

グローバル情報工学科・平成27年卒

何でも揃った町が好き

ゲーム制作に必要な機能などがそろったソフトウェアがブームで、ゲームづくりに没頭しました。人も物も何でも揃っていたこの町が好きでした。



金沢工業大学の卒業50年セレモニーは令和7(2025)年10月18日、21号館で卒業生(昭和51年卒)10人が出席して開かれました。社会の第一線で活躍し、大学の名声を高めてきた卒業生に対し、大澤敏学長は「皆さんの歩んできた人生が本学の発展の礎となっている」と述べ、感謝の品を手渡しました。卒業生を代表して河島(旧姓・川口)美智子さん(建築学科)は「人生を生きる上で大切なご縁をいただいた。さまざまな出会いがあったから今の自分がある」と謝辞を述べました。

出席者のメッセージ



山口 哲夫さん
(機械工学科)

「状況を読む力」養う

バスケットボール部に所属し、4年連続でインカレに出場しました。試合展開を予測して先手を打つプレーを心がけており、その経験で培った「状況を読む力」は、社会に出てからの土台になりました。



塚本 正良さん
(電子工学科)

学んだ知識が仕事に生きた

パソコンが一般に普及する前からコンピュータに親しんだ当時の経験が、その後の仕事に生きました。研究テーマは電子顕微鏡の原理。難解でしたが、仲間と切磋琢磨する中で強い信頼関係を築けました。



近藤 芳博さん
(建築学科)

優秀な学生の輩出を

15年ぶりに訪れた母校は、先進的な施設が増えていて、とても洗練された印象を受けました。少子化はますます進展すると思いますが、この先も優秀な学生を輩出していただきたいです。



松原 博さん
(旧姓・竹中)
(電子工学科)

卒業後も仲間と親交

学生時代と言えば、北海道旅行が思い出に残っており、一緒に行った仲間とは今も親交が続いています。卒業後もサマーセッションに参加した穴水湾自然学苑がなくなったのは寂しい限りですね。

こぶし会の国際交流支援事業

16人の留学を後押し

こぶし会では、国際高等専門学校と金沢工業大学が行う国際交流活動に参加する学生を支援しており、令和7(2025)年度は、イギリス英語研修、英語研修、SDGsインターンシップ、TNIサマープログラムの16人の留学をサポートしました。

研修報告会では、学生一人一人が研修の中で、何を感じ、どう行動したかを、自らの言葉で語りました。

中野莉紗さん(大学・生命・応用バイオ学科4年)は、「ルームメイトが会話に付き合ってくれて上達した」、三浦祐典さん(大学院・修士・建築学専攻1年)は、「積極的に英語を話すことで怖

くなくなった」と語りました。

また、高校時代からスラムの研究がしたかったという山口眞史さん(大学・建築デザイン学科1年)は、現地の人たちの切実な声を聞き、「スラムから出たい人を手助けしたい」と語り、それぞれが今回の経験を生かそうと決意を新たにしていました。



体験を語る学生たち

毎年楽しみ!

こぶし祭

ガラポンを回す手に力が入ります



スタンプラリー

1等の ハンドベルに歓喜

気軽に参加できると好評なスタンプラリー。家族連れや友達同士がスタンプを集め、ガラポン(福引)に挑戦しました。なかなか出ない金色の玉が転がり出ると、「1等!」のかけ声とともにハンドベルが鳴り響き、当選者には飛び上がるほど喜んでいました。

1等を引き当てた方、
おめでとうございます



スタンプコーナーはキャンパス内に
4カ所設置されました



保二亭

抹茶でおもてなし

「保二亭」では、生菓子和抹茶を来場者に提供しました。お点前は、野々市市茶道協会の竹澤和枝会長ら3名が担当し、秋らしい掛け軸や短冊が飾られました。訪れた人たちは、生菓子とともに清々しい香りの抹茶を楽しみました。



おいしい生菓子和抹茶が好評でした

こぶし会の秋と言えば「こぶし祭」で、令和7(2025)年10月19日に開かれました。スタンプラリーや保二亭、こぶし庵に加え、今年は「シン・ゴジラ」の監督で知られる樋口真嗣氏の講演会も行われ、こぶし会会員と地域の方々の笑顔があふれる一日となりました。

キャンパスを歩いた後はコーヒーで一休み



こぶし庵

おいしい コーヒーで休憩

ガラポン会場のすぐそばには、お休み処「こぶし庵」で来場者をもてなしました。こぶし祭に訪れた方たちは、淹れたてのおいしいコーヒーを飲みながら、おしゃべりに花を咲かせていました。



こぶし会会員が
心を込めてコーヒー
をいれました

樋口真嗣氏 講演会



来場者は『新幹線大爆発』の裏話に
興味津々でした

動画配信サイトで世界2位

講演会は金沢工業大学多目的ホールで行われ、ファンをはじめとした来場者が駆けつけました。樋口氏は令和7(2025)年に昭和50(1975)年公開の映画『新幹線大爆発』をリメイクした作品が動画配信サイトで世界2位の視聴を獲得したと語りました。JR東日本の協力の下、東北新幹線で撮影し、「乗客・乗員は全員助け、新幹線を爆発させるというミッションをどう両立させるかに心を砕いた」と話しました。

JA9YAA 65周年記念局



「つながらない」無線の楽しさ伝え

アマチュア無線「体験運用の日」に合わせた金沢工業大学アマチュア無線部の「JA9YAA 65周年記念局」が開設されました。記念局には体験希望者が次々と訪れ、無線での交信を楽しみました。部長の永山正一郎さん(機械工学科2年)は「どこでもスマホでつながる時代に、無線は『つながらない』魅力がある。地球の裏側にまで電波が届くこともあり、スマホにはないワクワク感が面白い」と語りました。



KOBUSHI 2025 Topics



焼き上がりを待つ人が続出しました

学生がデザインしたグッズ

販路開拓で知名度アップ

国際高等専門学校の「Agriculture Innovation Project」の「紅はるか祭り」は令和7(2025)年11月2・3日に同校向かいにある「道の駅瀬女」と「キジトラコーヒー研究所」で開かれ、学生が丹精に育てた焼き芋が飛ぶように売れました。今年は、猛暑で収穫量が減ったものの、販売に適した大きさが増え、売り上げアップが見込まれています。また、金沢市大野町にある複合施設「Kuru,ru./大野バイシクルベース」で販売するなど、販路拡大による知名度アップも進んでいます。



鈴木有先生(中央)、鈴木研究室の2期生とその家族

大学の変化に驚き

21年間、大学の建築学科で教鞭を執られた鈴木有先生、研究室2期生とご家族13人が令和7(2025)年6月30日、金沢工業大学扇が丘キャンパスを訪れ、大きく様変わりした大学に感心していました。香川支部長の米田卓さん(大学・建築・昭和53年卒)の呼びかけで実現したもので、下津竜之企画広報室長(大学・人間情報・平成11年卒)の案内でキャンパスを巡りました。ライブラリーセンター10階から眼下を眺めたメンバーは「あのアパートはまだ残っている」と学生時代を過ごした景色を懐かしんでいました。

会報こぶしとこぶし会ウェブサイトで2問を出題

クイズの学園

VOL 28

会報こぶしとこぶし会ウェブサイトが連動して、クイズを出題します。応募するにはそれぞれの答えが必要ですので、注意してください。

第1問 会報こぶし(77号)からの出題



ブロック

誌面の中から当てはまる言葉を探してください。
ヒント:P13をチェック!

第2問は **こぶし会ウェブサイト** で出題 →



応募方法

同封しているインフォメーションカードに、会報こぶしとこぶし会ウェブサイトを出題されたクイズの答え2つを記入してお送りください。正解者の中から抽選で20名の方に3,000円分の図書カードをお送りします。なお、当選者の発表は賞品の発送を持って代えさせていただきます。



締切

令和8(2026)年
4月3日(金)当日必着

正解発表

正解は令和8(2026)年4月6日(月)にこぶし会ウェブサイト上で発表します。

こぶし会

検索

当選者は
20名!!

■ 松井 くに お 教授

金沢工業大学

情報理工学部

知能情報システム学科

研 究



学生とともに点字ブロックを開発する松井教授



過去から未来へ
学園の学び

社会を動かし、

点字ブロックに 情報を付加

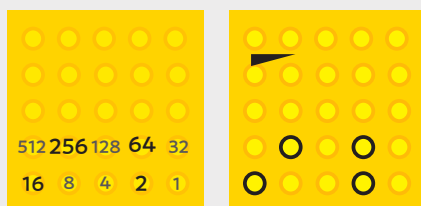
すべての人に 点字ブロックの価値を

突起の周囲などに黒いテープが張られた点字ブロックをご存知でしょうか。「コード化点字ブロック」と呼び、スマートフォンのアプリで読み込むことで、観光などの情報を得ることができます。

このコード化点字ブロックが誕生した背景には、視覚障害者が安全に生活を送る上で欠かせない点字ブロックの普及が、必ずしも進んでいないという現状があります。なぜなら、障害のない人にとっては「自分には必要のないもの」と、関心が向けられにくいからです。

点字ブロックには、線状ブロック(移動の方向)と点状ブロック(注意する場所)の2種類があります。松井教授は点状ブロックの突起に着目。突起に番号を割り振り、突起と方向を示す矢印を黒いテープでマークします。スマートフォンがその番号をサーバーに送ると、サーバー側にある音声や文字がスマートフォンに表示される仕組みです。テープを張るだけなので、低コストで済みます。

【コード化点字ブロックの仕組み】



点字ブロックの突起に数字を割り当てて数値化します。黒いテープでマークした突起などをアプリで読み込み、数字の合計で観光情報などを引き出します。

「他人事ではない」160万人

平成30(2018)年に研究を開始した当初は、視覚障害者の利便性向上を目的としていましたが、障害のない人にも対象を広げた方が点字ブロックへの理解が深まり、普及が促進されると考え、方針を転換しました。

現在、コード化点字ブロックは、石川県金沢市の金沢駅周辺から兼六園にかけて約200カ所に加え、東京都や宮城県をはじめとする全国各地約150カ所にも設置されており、英語・中国語・韓国語への多言語化も進めています。

普及にはまだ課題があります。スマートフォンは機種ごとに動作が異なり、調整に時間がかかることや、最も設置したい公共交通機関では「歩きスマホを助長する」という誤解から設置が進んでいません。

実は、視覚障害者は、全国で約160万人いると言われています。そのうち、約8割の方が後天性です。後天的に目が不自由になると、家に閉じこもりがちになります。このシステムは、そうした方々が再び外に出るきっかけにもなります。

誰もが自由に情報へアクセス

今後は、ショッピングモール内でのセールス情報の提供など、商業利用も進めていくほか、松井教授は「GPSの精度が数センチ級に上がれば、既存の点字ブロックに改めてマーキングする手間が省け、情報を提供できるようになる」と未来を見据えます。

この研究は現在、「実証期」にあり、インフラとして整備される「統合期」を目指しています。誰もが情報にアクセスし、安心して社会に参加できる。そんな社会の実現は遠くないと松井教授は信じています。



■ 向井 守 教授

国際高等専門学校 副校長
(旧・金沢工業高等専門学校)

恩 師

熱意を持って学生を指導する向井先生

人を育てる

学生から今も慕われる温かな指導。社会の課題を解決する探求心。学園には「社会を動かし、人を育てる」情熱が息づいています。今回は金沢工業大学の松井くにお教授と国際高等専門学校の向井守教授をご紹介します。



英語は話すための「道具」

「いつか自分が学んだ英語を子どもたちに教えたい」。そう考えていた私が、アメリカの大学院から日本に帰国したのは、昭和57(1982)年、28歳の時です。

実は、金沢工業高等専門学校(現・国際高等専門学校)に採用されたのは偶然です。たまたまバスに乗り合わせた金沢工業大学の外国人教員と話したのがきっかけで、就職することになりました。

授業で学生を前にすると、ワクワクしたのを覚えています。アメリカで学んだ新しい英語のフレーズを教えると、学生は目を輝かせて聞いてくれましたね。

1990年代までの英語は、受験勉強のためという意味合いが強く、コミュニケーションのために使うことよりも文法を重視していました。しかし、私が学生を教え始めたころから、「使うための英語」が盛んに言われ始め、「文法を間違えてもコミュニケーションを取っていく」という風潮が広まっていきました。

英語は、世界中の人たちと話すための「道具」です。英語がしゃべれると、人生は何倍も豊かになります。私の教育方針は、英語を「使う」ことです。受験のためでなく、楽しむためのものにしたかったのです。世界では「間違いだらけの英語」が使われています。それでも、人々は怖がることなく、楽しくしゃべっています。

世界で活躍する人材の育成へ

今も続いているニュージーランドの国立オタゴポリテクニクへの1年間の留学プログラムの立ち上げは思い出深いエピソードです。準備には2年ほどかかりました。大使館を訪れ、相手校の教員と信頼関係を構築し、学生のホームステイ先を探すなど、かつてない試みを実現するため奔走しました。

留学プログラムは平成14(2002)年からスタートし、3年生は単位互換制で1年間留学します。そのような学校は当時珍しかったので、全国的に話題を集めました。毎年のことですが、学生が無事に日本に帰ってくるとほっとします。このようなプログラムが実施できたのも、学園が国際化の波を感じ取り、英語の重要性を認識したからです。

金沢工業高等専門学校の設立当初の役割は、「ものづくり」の現場を支える中核的な人材を育成することでした。しかし、1990年代に入って世界で活躍する人材の育成が求められるようになったことから、英語力の向上が必須だと考えたのです。

その後、外国人教員は6人体制となり、平成30(2018)年には日本語、文学、日本史以外は全て英語で教える国際高等専門学校への開校へとつながります。まさに英語をツールとして数学や物理などを学ぶ学校が誕生したのです。

思いやりの行動を

教師をしていると、5年間一緒にいた学生との別れはつらいものです。でも、卒業してからの再会は格別です。還暦を迎えた卒業生が、私の古希の祝いも兼ねて温泉旅行を企画してくれたのはうれしかったですね。

学生には、とにかく「世界に目を向けろ。英語は絶対怖くない。間違えてもいい」と言ってきました。

社会人になったばかりの卒業生もいれば、定年を迎える卒業生もいます。皆さんには今後、思いやりのある行動をしてほしいです。思いやりを持つことは、住みよい社会の実現し、私たちが柔軟に対応できる心を養います。心と身体はいたわってください。いつまでも応援しています。

「間違えてもいい」から
積極的にしゃべる

PLUS 高専

高専ロボコンで初のデザイン賞

国際高専 A チーム

アイデア対決・全国高等専門学校ロボットコンテスト2025が令和7(2025)年11月16日に両国国技館(東京都)で開催され、国際高等専門学校の国際高専Aチームがデザイン賞を初受賞しました。また全国大会の1回戦突破は15年ぶりです。

今年のテーマは「Great High Gate」で、ロボットがボックスを積み上げてゲートをつくり、そのゲートを選手が乗った台車で一緒に通過します。ゲートを高く積むほど高得点が得られます。

国際高専Aチーム「香箱倶楽部」は、北陸の冬の味覚「コウバコガニ」をかたどったロボットで、3年ぶりに全国大会出場を果たしました。東海

北陸地区大会後、駆動系の改修を行い、移動や箱をつかむ作業の速度が1.7倍となったそうです。

改修によって時間的余裕が出たことが、安定したゲートの設置・通過につながり、1回戦、2回戦ともゲートを通過したものの、2回戦で敗退しました。

デザイン賞を受賞した理由として、生き物を模した愛らしいデザインやクルクル回る目のギミックに加え、「確実に



デザイン賞を受賞した国際高専 A チーム

にゲートを築く技術」と『逃げ出したカニを人が追いかける』といった「ストーリー性のある演出」が評価されました。

PLUS 学園

社会・地域・人に新たな価値を

「X(クロス)デザインラボ」

金沢工業大学「X(クロス)デザインラボ」(新16号館)の地鎮祭が令和7(2025)年8月19日に行われました。令和9(2027)年春の開設を目指しており、社会・地域・人に新たな価値(DX・GX・SX)をもたらす社会実装型教育研究・イノベーション拠点としての役割が期待されます。

現代社会は、AI等の情報技術活用による生産性向上(DX)と、持続可能な社会の実現(GX・SX)に貢献できる人材を強く求めています。この社会的要請に応えるべく、金沢工業大学では「専門分野 × AI・情報技術」を教育の軸とし、社会実装型教育研究を全学的に推進しています。

その中核拠点として開設するのが

「X(クロス)デザインラボ」です。「知・コミュニケーション・デジタル・モノ・コト・人」が有機的に交差(クロス)する革新的な学習環境を提供し、学生・教員・企業が一体となって新たな価値創出(DX・GX・SX)に挑戦する、開かれたイノベーションハブとしての機能を担います。

建物のコンセプトは、①利用者が主役となる自由度の高い②あらゆる背景や価値観を持つ人々が自分らしく過ごせる③知やスキルが融合する④環境に優しく、災害にも強い⑤建物そのものが「生きた教科書」一です。



多様性のある空間演出が特徴の建屋内部

世代・文化・分野を超えた共創教育と多様なプロジェクトを展開し、社会実装型教育研究プロジェクトを大きく進展させ、自らの情報技術で社会の未来を拓く、高度なITスペシャリストを育成します。



旧北国街道で、 歴史の面影たどる



石川県で最も古い町家

サマーセッションin白山麓2025は令和7(2025)年7月26、27日、石川県野々市市の旧北国街道一帯と国際高等専門学校白山麓キャンパスで行われ、参加者は野々市が金沢城下から京都へ向かう最初の宿場町として栄えた往時の賑わいに思いを馳せ、金沢に古くから伝わる遊び「旗源平」も体験しました。

サマーセッションではまず、ののいち里まち倶楽部のボランティアガイドを務める浦勝久さん(大学・土木・昭和48年卒)の案内で、現在は本町通りと呼ばれる旧北国街道沿いに残

る旧家や神社をめぐりました。

表構えは町家、奥の間取りは農家という珍しい建物の「野々市市郷土資料館」では、鮮やかな朱色の紅殻の壁に目を凝らし、普通の壁の8倍の値段がかかったことに驚いていました。また、国指定重要文化財の「喜多家住宅」は、石川県に残る町家で最も古く、フランスのイヴ・サンローランが参考にしたとされる「たてわく」のほか、一本の釘、筋交いのない建物の技術の高さに感心しました。

この後、参加者は白山麓キャンパスに移動。浦さんが加賀国を支配し、加賀一向一揆で滅亡した富樫政親の居城・高尾城の構造(大手道や

搦手、砦の配置)や合戦の逸話(武将の一騎打ちなど)を解説しました。

金沢伝統の遊びに笑顔

夜には、幕末から金沢市内に伝わる正月の遊び「旗源平」に挑戦し、参加者は源氏と平家に分かれましました。ルールはいたってシンプルで、サイコロを振って旗を取り合い、敵の纏を早く取った方が勝ち。賽の目で一番よいのは5と1で「ウメガイチ」と呼び、中旗1本が奪えます。参加者は賽の目に一喜一憂しながら楽しいひとときを過ごしました。



浦さんが臨場感たっぷりに加賀一向一揆について語りました



実際に使われた旗源平のセット

✓ 旗源平とは



幕末から金沢市内に伝わるお正月の遊びです。江戸幕府の目をはばかりながら武芸を忘れないよう、加賀藩主前田斎広の武術指南役土方常輔が考案し、遊びを通して「治にいて乱を忘れず」という精神が込められています。

サポートします!

こぶし会同窓会応援

こぶし会では、卒業生のクラス会や研究室(ゼミ)、部活動等の同窓会の開催を支援しています。



石川県庁金沢工業大学卒業生同窓会



花岡大伸研究室



金沢工業大学剣道部OB会

支援内容

30人以上の団体にに対し、1人500円相当の支援金を提供します。

001 | 課外教育活動が未来の自分を支える

将来を見据えて挑戦する。こうした学生の原動力は「情熱」であり、卒業生の支援が「後押し」しています。今号から、先輩から後輩へと「Passion」のバトンをつなぐ新たなリレーがスタートします。



山田和奏さん
(大学・生命・応用バイオ学科3年)



上田ゆきさん
(大学・生命・応用バイオ学科3年)



街道瑠奈さん
(大学・機械工学科3年)



栄養価が高く、ビタミンAも同時に摂取できる納豆菌の培養技術を研究

■ 山田和奏さん

私が念頭に置いているのは「新しい挑戦」と「人とのつながり」です。小学校の理科実験で得た探究心、中学の吹奏楽部で培った「やり抜く力」と「感謝の心」が揺るぎない原点であり、高校では「持続可能社会」に関心を持ちました。

大学では発酵技術の研究や学生地域活動推進委員会での企画担当など、学内学外を問わず、「まずはやってみよう」と挑戦を続けています。

新しい出会いと成長が私をさらに奮い立たせます。環境、エネルギー、地域連

携など、関心を持つ分野は広がっており、今も自分の情熱を生かせる道を模索中です。社会人になってからも挑戦者として成長し続け、自分らしい形で社会に貢献していきます。

■ 上田ゆきさん

化粧品業界で活躍することを夢見ていた私の運命を変えたのは、課外教育活動「ねばープロジェクト」でした。世界の2.5億人が苦しむビタミンA欠乏症

を納豆菌で解決しようとする挑戦に私は心を強く動かされました。

食品には「人を元気にする力」があります。受験の時に母の用意してくれたスープは心を癒し、前向きな気持ちになりました。「食べ物は身も心も豊かにする」——これが私の原点です。

活動では、納豆菌が溶けてしまうという予期せぬ問題に直面しましたが、仲間と協力しながら解決への糸口を見つけた経験は、「自ら考え、動く力」を育んでくれました。

今では、食品業界に強い関心を持ち、将来は人々の生活に笑顔と元気を届ける食品の商品開発に携わりたいと考えています。金沢工業大学での学びと出会いが、私の夢を広げてくれました。

■ 街道瑠奈さん

「医療機器」は、かつて私を救ってくれた希望そのものです。高校時代に膝の半月板を損傷し、内視鏡の手術で治った経験から現代医療技術の素晴らしさに触れ、金沢工業大学機械工学科に進学しました。現在は医工連携プロジェクトで、胃がんで用いる内視鏡手術の装置開発に挑んでいます。

2年間かけた案が採用されず悔し涙を流した日もありましたが、挑戦し続ける気持ちを忘れなかったことで、教授から「これならいけるかも」と評価された案にたどり着けました。

私には、医療機器によって、誰かの生活の質を高めるだけでなく、「心に響くもの」をつくりたいという夢を持っています。授業では得られない課外教育活動の経験が、未来の医療を支える力になります。

■ 寄付者名一覧 令和7年4月1日～令和7年9月30日(敬称略・五十音順)

【個人】浅井康夫、泉屋利明、泉屋利吉、伊勢陽一、伊藤康紘、井上泰輝、岩井慶次、岩崎純一、岩本修介、植田治、枝廣直樹、遠藤昭市、及川周平、奥田敦司、奥野靖幸、織田英也、柿田正一郎、金森洋三、亀井隆史、烏谷伸、川向義朗、木倉正明、北村彰、北村和光、神代竜吉、小中博之、齊藤敏彦、斉藤盛雄、酒井資明、坂本誠二、崎本優、猿渡弘之、柴田浩伸、下出邦雄、杉本栄三郎、鈴木誠一、多賀裕、高野宏康、橘寿一、橘守、谷口勝則、辻政信、津田政明、都倉泰信、内藤勇夫、長尾正治、中田孝幸、中野秀樹、中村信一、新津良久、西山喜一、野口啓介、野中正樹、野村耕二、服部潔、早川義造、林竜二、林野光輝、東森大知、比佐勝明、飛田憲一、百万光生、藤原和也、前田正英、政谷敏子、松浦博、松浦正人、松田真一、松本正裕、南茂治、麦谷彰彦、本志郎、森内忠良、森本喜一郎、安原卓、山岸敬広、山

崎慎司、山寄雅裕、山田昇、山本良二、脇坂美樹雄、渡辺悦史

【法人】株式会社アクトリー、株式会社アジル、株式会社大地電業所、株式会社岡田商会、株式会社金沢総合研究所、株式会社桐畑、コーセル株式会社、小松パワートロン株式会社、株式会社滋賀山下、株式会社高田組、タツタ電線株式会社、株式会社王家建設、長野ポンプ株式会社、株式会社西山装飾、株式会社山岸建築設計事務所、株式会社山岸設備設計事務所

寄付は
こちらから▶



個人



能登復興ヘジャズ演奏



金沢工業大学軽音楽部に所属していたバンドのメンバー4人が令和6(2024)年12月30日、島根県松江市の旅館で能登復興のチャリティーライブを開催しました。旅館は金沢市でジャズバーを経営している永見拓

也さんの母親にゆかりがあり、静岡、愛知、滋賀からメンバーが集結しました。永見さんは「私は鳥取県出身ですが、金沢でのつながりを大切にし、能登をはじめとした地域を音楽の力で勇気を与えていきたい」と話されました。



バンドのメンバー4人(左から矢田将太さん、永見拓也さん、上杉将太さん、麻生大稀さん)

鎮 魂 (敬称略)

下記の方々がお亡くなりになりました。心よりご冥福をお祈り申し上げます。

<特別会員>

令和7年 8月 二口 邦夫
(大学教員・修士・情報専攻・S55)
9月 円満 隆平
(大学教員)

<正会員>

上田 輝文
(大学・電気・S44)
河合 考明
(修士・電気専攻・H5)
鈴木 義博
(大学・土木・S47)
中本 富雄
(大学・土木・S47)
前田 博哉
(大学・土木・S56)
山本 秀夫
(保二会・電波・S36)
平成20年 9月 杉木 健二
(大学・情報・H6)
平成22年 12月 遠山 雅夫
(大学・電子・S54)
平成30年 金井 健一
(大学・電気・S51)
平成31年 2月 細見 吾朗
(大学・心理情報・H23)
令和4年 中山 雅文
(大学・情報・H9)
令和5年 前田 浩二
(大学・機械・S53)
5月 北村 良澄
(保二会・電波高・S38)
令和6年 原田 茂充
(大学・電気・S54)
5月 見崎 公彦
(大学・経営・H3)

越野 卓雄
(保二会・電波専・S35)
8月 荒木 健次
(大学・機械・S50)
10月 竹村 栄哲
(大学・建築・S52)
11月 奥野 義治
(大学・機械・S59)
12月 和田 克己
(大学・機械・S46)
令和7年 1月 藤田 正人
(保二会・電波・S36)
真国 和慶
(大学・経営・S54)
會田 英一
(大学・土木・S55)
2月 浅利 清美
(大学・情報処理・S54)
井上 茂美
(大学・機械・S53)
室井 光一
(大学・電気・S45)
西川 幸一
(高専・電気・S44)
3月 加藤 良治
(保二会・工大附・S41)
4月 高桑 一仁
(保二会・電波専・S38)
中谷 稔
(保二会・電波高・S40)
小林 賢二
(大学・経営・S54)
5月 國廣 憲司
(大学・土木・S49)
山岸 潔
(大学・土木・S47)

後藤 優
(大学・機械・S62)
6月 板本 規久夫
(大学・土木・S54)
疋田 真一
(大学・機械・S56)
佐々木 寛治
(大学・建築・S52)
7月 内藤 考司
(大学・機械・S50)
椿 幸範
(大学・機械・S57)
佐野 洋光
(大学・機械・S55)

8月 打田 繁樹
(保二会・電波高・S37)
浅香 憲一
(大学・電気・S44)
9月 星野 敬典
(高専・電気・S45)
10月 谷藤 達也
(大学・建築・S62)
山田 豊
(大学・建築・S51)
山下 隆
(大学・機械・S47)

久保猛志先生

大学名誉教授

令和7(2025)年2月16日、逝去。81歳。昭和54(1979)年に教授に就任し、専門は都市環境工学・建築環境工学、環境管理が専門でした。また、副学長など多くの役職を歴任され、人間性を育てる指導力にも定評がありました。



日下遼先生

大学名誉教授

令和7(2025)年8月25日、逝去。82歳。昭和48(1973)年4月、金沢工業大学講師として着任され、助教授を経て、昭和50(1975)年に教授に昇任されました。メディア情報研究所所長などを歴任され、本学の発展に尽力されました。



南内嗣先生 (大学・電気・昭和44年卒)

大学名誉教授

令和7(2025)年9月26日、逝去。78歳。金沢工業大学電気工学科を卒業後、昭和51(1977)年に金沢工業大学助手、講師となり、助教授を経て、昭和63(1988)年に教授に昇任されました。温厚で面倒見もよく、多くの学生からも慕われていました。



令和7(2025)年秋の叙勲で
次の方が受章されました。

旭日双光章

中島 俊幸氏

(大学・土木・昭和50年卒)

叙勲などの慶事を誌面でご紹介いたしますので、こぶし会事務局まで情報提供をお願いいたします。

編集後記

◆今号では、点字ブロックの新たな可能性を見出した「コード化点字ブロック」の研究と、国際社会を見据えて英語教育に情熱を傾けた恩師を取り上げました。国際高等専門学校と金沢工業大学の研究は、日常生活の中に生かされており、研究の役割は日増しに大きくなっています。また、恩師からの言葉は、卒業後も影響を与えます。いつまでも絆が続いていくことを願っています。

◆さて、こぶし会の委員長交代に伴い、今号から会報委員長を務めています。就任に際し、会員の皆さんが学びと気づきを得ることで、新しい価値観を発見できる誌面を制作できたらと考えています。そのため、これまで以上に分かりやすく、好奇心がわく記事を掲載していきます。読みたい企画などがありましたら、ご意見をお寄せください、お待ちしております。／記K.N

第29回

全国一斉ボウリング大会

213人が熱投!!



令和7(2025)年10月31日から11月15日にかけて全国23支部24会場で開催され、会員136人、家族77人が熱投を繰り広げました。参加者はストライクやスパアを出すと、仲間たちとハイタッチをするなど笑顔でした。



〔成績〕 江端 克則さんが優勝！

■会員の部

- 優勝 447点 新潟会場 江端克則さん (大学・情報・平成3年卒)
 2位 359点 札幌会場 道田健二さん (大学・機械・昭和52年卒)
 3位 359点 富山会場 西田康博さん (大学・電気・昭和52年卒)
 4位 354点 和歌山会場 南本好民さん (大学・土木・昭和49年卒)
 5位 346点 岐阜会場 佐藤直樹さん (大学・建築・平成3年卒)

※スコアは2ゲームのトータル。 ※会員の部で同点の場合は、年長者が上位となる。 ※家族の部で同点の場合は、両者とも同順位となる。

■家族の部

- 優勝 388点 新潟会場 江端将一さん
 2位 359点 金沢会場 北川嘉市郎さん
 3位 353点 能登会場 萬澤彰仁さん

■インフォメーションカード

住所などの確認に協力を

本人や勤務先の情報は、「会報こぶし」の発送などに必要です。変更があったときは、インフォメーションカードの情報を更新した上で、事務局への返送にご協力ください。

確認事項

1. 転居 2. 異動 3. 社名変更 4. 転職 5. その他



団体・業者からのDMや電話にご注意ください！

こぶし会では、団体・業者への名簿の提供および寄付や商売の斡旋は一切行っておりません。もしも、自宅や勤務先などに業者等からダイレクトメール(DM)や電話があった場合には、金沢工業大学同窓会とは無関係ですのでご注意ください。

【卒業生の皆さまへ】各種証明書発行について

大学の場合

■ 金沢工業大学ウェブサイト

<https://www.kanazawa-it.ac.jp/>

TOPページ → 卒業生の方 → 各種証明書発行



金沢工業大学

高専の場合

■ 国際高専ウェブサイト

<https://www.ict-kanazawa.ac.jp/>

TOPページ → 卒業生の方 → 各種証明書発行



国際高専

こぶし会を日本一の同窓会組織に！

同窓会維持会費納入のご案内

こぶし会では、平成7(1995)年度より「同窓会維持会費」制度を導入し、**満40歳以上の会員に年額1,000円を納入していただいております。**

80,000人を超える会員と各支部への活動支援、年2回の『会報こぶし』の発行など、同窓会活動の発展を図るために、ご理解とご協力をお願いします。対象となっている方には、払込取扱票を同封しています。

■会費の払込方法 郵便払込(3年分一括払い3,000円)

お近くの郵便局から同封の払込取扱票を利用して払い込んでください。住所等の訂正がございましたらインフォメーションカードにご記入の上ご返送ください。

対象者

- 保二会全会員
- 高専同窓会 令和8(2026)年3月末日で40歳以上の会員
- 大学同窓会 令和8(2026)年3月末日で40歳以上の会員

*会費の納入は80歳までとさせていただきます。

*令和4(2022)年度に3年分の同窓会維持会費の払い込みをされた方は、令和7(2025)年3月に期限が切れております。払込取扱票を同封させていただいた方はその該当者となりますので、払い込みくださいますようお願いいたします。

こぶし会
事務局

〒921-8501 石川県野々市市扇が丘7番1号 金沢工業大学内

TEL.076-294-6375(直) FAX.076-294-0886

Eメール.kobushi@kanazawa-it.ac.jp URL.https://www.kobushi.jp



こぶし会